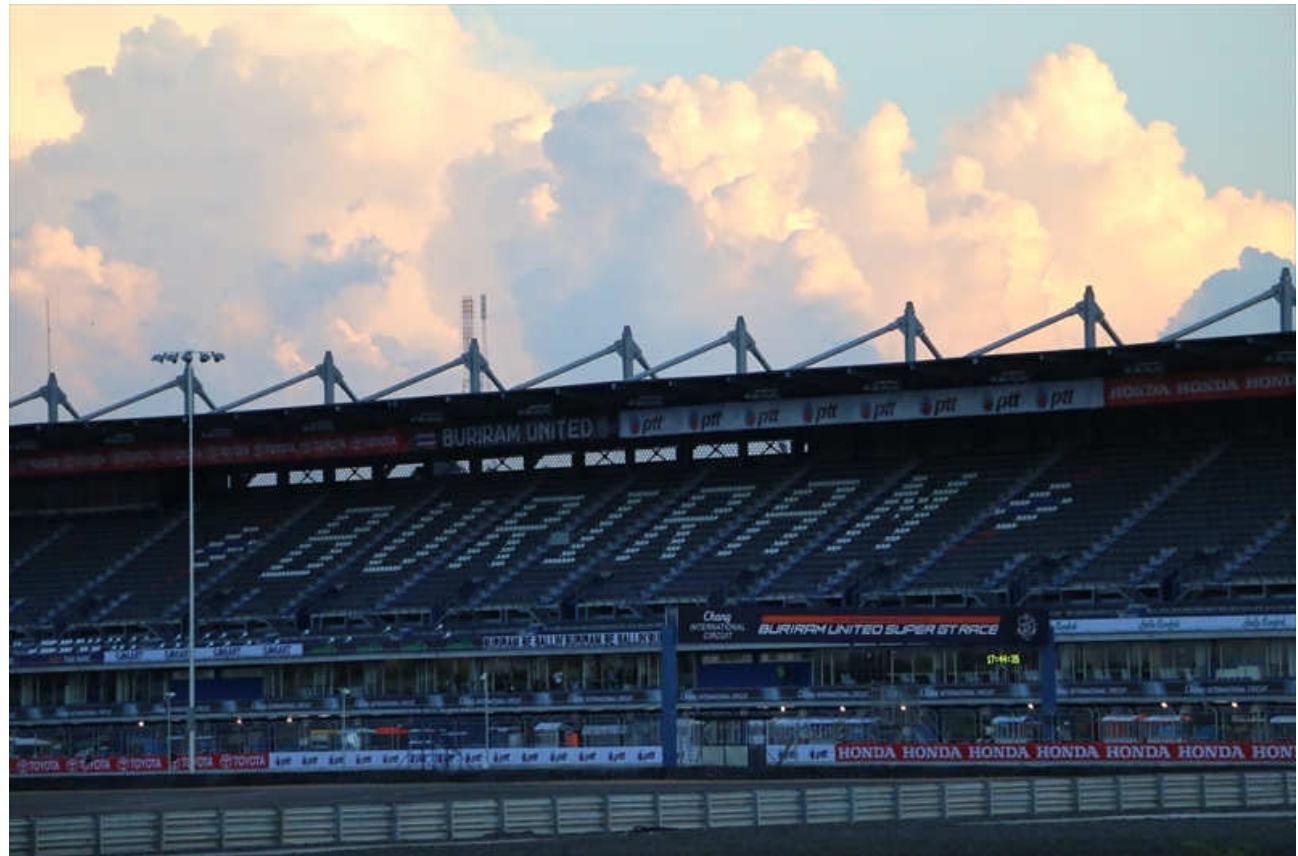


Juichi WAKISAKA Race Report

2014 AUTOBACS SUPER GT Round 7 - BURIRAM UNITED SUPER GT RACE -

◆◆ 進化した足下を味方に、激走を見せて今季最高位となる 6 位獲得 ◆◆

No. 19 Weds Sport ADVAN RC F						
Drivers	Qualifying	Final				
脇阪 寿一 / 関口 雄飛	8位	6位				



■大会概要

開催日：2014年10月4日-2014年10月5日

サーキット：チャンインターナショナルサーキット（タイ、コース全長：4.554km）

レース距離：66周（300.564km）

入場者数：金曜日13, 426名、予選日42, 597名、決勝日75, 168名、合計131, 192名

SUPER GT 公式イベントとして今季初の海外戦となった今回。10月4-5日、東南アジアはタイ東北部のブリラム県にある「チャンインターナショナルサーキット」を舞台にして第7戦「BURIRAM UNITED SUPER GT RACE」が開催された。No.19 WedsSport ADVAN RC Fで初サーキットの一戦に挑んだ脇阪寿一は、チームパートナーの関口雄飛選手とともに予選8番手からスタートを切り、戦闘力が向上したクルマで攻めの走りを披露。上位争いを繰り広げ、今季チーム最高位となる6位入賞をもって、チェックカードフラッグを受けることになった。

早くも今シーズンの終盤戦を迎えたSUPER GT。海外戦かつ完成まもないサーキットでの一戦はシリーズの中でも極めて稀なこと。開催が決まった時点ではまだ施設の完成も見えておらず、手探りの状態ではあったが、無事に公式戦開催が実現した。そんな中、チームではクルマの足下を固めるタイヤのポテンシャルが格段に上昇しており、決勝に向けて大いに期待が膨らんだ。

■10月4日(土)

10:00-12:00 公式練習

15:15-15:30 ノックアウト予選 (Q1)

16:00-16:12 ノックアウト予選 (Q2)

【フリー走行】(10月3日(金)) 11番手 / 非公式スケジュールのため公式タイムの表示なし

1周4.554m、ストップ&ゴーと高速インフィールドセクションを巧みに組み合わせたチャンインターナショナルサーキットは、アップダウンもしっかりと体感できるチャレンジングなコースだとSUPER GTドライバーによるインプレッションも概ね上々。レースウィーク中は、初のコースに慣れるため、練習走行前にはコース歩行の時間が確保され、チームスタッフやドライバーなどが思い思いにコースへと向う姿が見られた。

脇阪も、このサーキットについて「路面のミューが低く、チャレンジしがいがある」とした上で「僕らドライバーにとって、新しいサーキットでレースをすることはものすごく新鮮であり、チャレンジングな気持ちにもなれるので、嬉しいし、ありがたい。現地のサーキット関係者のみなさんやGTAにも感謝しています」と言葉を続けた。

コース歩行の時間を終え、午後3時から2時間におよぶ練習走行がスタート。完成したばかりのコースは路面舗装のコンディションがまだ落ち着かず、タイヤがしっかりとグリップしないため、レーシングスピードで走るにはリスクが高くなる。しかし、ドライバーとしては攻める場所、抜きどころ、クリアなライン等々、いち早く見極めたいポイントも多く、さらには自身がドライブするクルマとの相性の確認なども行いたいという思いもある。そういう様々な思いが交錯する中でセッションが進むと、次第にコースアウトする車両も出始める。一方で、No.19 WedsSport ADVAN RC Fはこのセッションを11番手で終了。まずはまずの滑り出しとなつた。



【公式練習】 8番手 / 1'26.275

土曜日の朝を迎えたチャン インターナショナル サーキット。白くまぶしい雲が青空の中に多く浮かび、強い日差しが照りつけるなど、日本の真夏のような天気の中、施設内ではまずオープンピットが開催された。日本国内のサーキットではおなじみのセッションながら、初開催となるタイでは、すべてが「初モノ」づくり。興味をもってパドックを闊歩する地元のモータースポーツファンの姿が多く見られた。

公式練習は午前 10 時にスタート。気温 34 度、路面温度 48 度の中、続々と GT カーがコースへと吸い込まれて行く。前日同様、勢い余ってコースアウト…というシーンも見られ、セッション中、2 度の赤旗中断を挟んでの走行となつたが、No.19 WedsSport ADVAN RC F は着実にタイムアップを果たすなど、順調な流れの中でセッションを消化。脇阪-関口選手-脇阪のオーダーで合計 40 周を走り、中盤、関口選手がマークしたチームベストタイムは 1 分 26 秒 275。8 番手つけ、午後からのノックアウト予選へ大きな期待を寄せることになった。



【ノックアウト予選 (Q1)】 7番手 / 1'25.631

新設サーキットの予選も国内サーキットと同様にノックアウト方式を採用。いつも以上に緊張感高まる中でアタックが始まった。GT300 の Q1 を経て、午後 3 時 15 分に GT500 の Q1 がスタート。チームでは Q1 に関口選手をアッチャーとして送り込む。

早々にアタックへと挑んだ関口選手は、まず 1 分 25 秒 631 の好タイムで暫定 2 番手につける。だが、後から続々とタイムを更新するライバルが出現。Q2 への進出に暗雲が一瞬立ち込めたが、セッションを 7 番手で終了。無事に Q2 へと駒を進めた。

【ノックアウト予選（Q2）】 8番手 / 1'26.358

そして迎えたQ2。午後4時から12分間の勝負に脇阪が挑む。今シーズン初のQ2進出、しかもニュータイヤでのアタックとなった脇阪は、レースウィーク中の自己ベストタイムを大幅に更新。1分26秒358のタイムで決勝は8番グリッドからスタートを切ることになった。

Q2を終えた脇阪。「今回、ヨコハマタイヤにとってチャンスが非常に大きい週末を迎えており、その中でできる限りのことをやって頑張りました。新しいサーキットのため、路面が刻々と変化しており、最初はヨコハマタイヤにだけあったアドバンテージがブリヂストンやミシュランも出てきましたね。また、現状僕らは24号車（同じヨコハマタイヤ装着車）にちょっと置いて行かれた感じがしますが、いずれにしても明日はヨコハマタイヤ勢にとって今シーズン最大のチャンスだと思いますので、しっかりとした結果を出したいですね」と現状を説明するとともに決勝レースへの意気込みを語った。



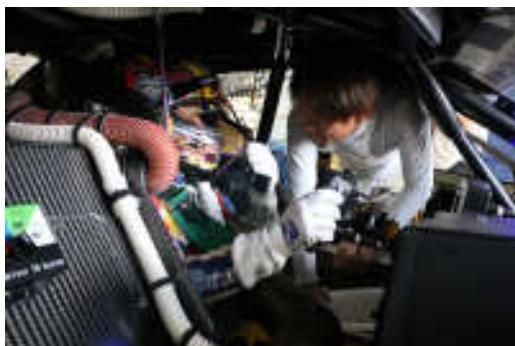
■ 10月5日(日)

09:50-10:20 フリー走行 (10:30-10:50 サーキットサファリ)
15:00- 決勝 (66周)

【フリー走行】 12番手 / 1'27.096

レースウィーク一番の蒸し暑さを味わうことになった日曜日。日曜だけでも7万5千人が現地まで足を運んだと伝えられ、日本のSUPER GTをひと目見ようと、サーキットは大いに盛り上がりを見せている。

午前9時50分から30分間のフリー走行が開始。12番手のタイムに留まったが、決勝に向けての最後の準備は至って順調。あとはレース本番で無事に周回を重ねていくことを一番に作業を進めるのみだ。



【決勝】 6位 / 5ポイント獲得 (シリーズポイント: 12ポイント、シリーズランキング: 17位)

迎えた午後3時からの決勝。66周先のチェックをを目指して、文字通り筋書きのないドラマが幕を開けるときがやってきた。気温34度に対して路面温度52度。強い日差しの中グランドスタンド前のメインストレートをGT500および300の車両がズラリと埋め尽くしている。No.19 WedsSport ADVAN RC Fには関口選手が乗り込み、スタートを切った。

安定したペースで周回を重ねる関口選手。コース上ではGT300が絡む中、GT500同士の攻防戦を展開するという慌ただしい状況ではあったが、クルマを巧みにコントロール、近づくルーティンピットワークに備えた。ところが、そのピットイン直前、9番手走行中だった関口選手が、最終コーナー上に落ちていた他車の破損パーツを踏んでしまう！するととっさの判断でそのまま緊急ピットイン。これにもチームは冷静に対応し、慌ただしいながらもガソリン補給、タイヤ交換、そしてドライバー交代までのルーティンワークを完遂！脇阪が代わってコースへと向った。

タイヤがまだ温まりきっていないアウトラップに後続車両の先行を許した脇阪だったが、次第にペースアップ。流れにのって、"戦える"クルマで周回を重ねていき、訪れた逆転のチャンスをモノにしていった結果、終盤になってポジションは8番手まで浮上。その時点で前後車両とバトルを繰り広げるほどギャップは小さくなかったが、高いスピードを持続し攻める走りを見せる脇阪。

レースは終盤になりタイヤ無交換の作戦を採った車両がポジションダウンしたこともあり、No.19 WedsSport ADVAN RC Fは6番手まで浮上。ミスなく、着実かつ攻めの走りを重ねた結果、チームとして今シーズンベストリザルトとなる6位で戦いを終えている。



レースを終えた脇阪は、安堵の表情を見せながらも、「今年一番のレースができた」と頬を緩めた。「前半は、関口選手が熾烈な戦いを乗り切ってくれたのがすばらしい。クルマもタイヤもその走りを支えてくれる最高のものでした。一方で、その関口選手の走りを見守りつつ、自分のステントを考え、うまくレース運びができたと思う」とチーム、ドライバー、そしてチームに関わるスタッフらと手にした結果を素直に喜んだ。

結果を出して、上昇気流に乗ったNo.19 WedsSport ADVAN RC F。最終戦のもてぎに向け、「さらにクルマ、タイヤのポテンシャルを引き出し、その車を我々が自在に扱えるようにベストを尽くします」と脇阪。「6位で満足してはいけないことはわかつてますが、我々にとっては今年一番のレースをした上で得た結果なので、ものすごくうれしいです。そういうレースをさせてもらえたことに、改めて感謝します。もてぎでさらにいい走りができるよう、しっかり準備して挑みたいと思います。引き続き、応援よろしくお願いいたします」と締めくくった。

次戦は、11月15日(土)・16(日)にツインリンクもてぎ(栃木県芳賀郡)にてシーズン最後のレースが開催される。

[Photo Gallery]

